



最新天文百科 ～宇宙・惑星・生命をつなぐサイエンス～

Michael A. Seeds, Dana E. Backman 著
中村 理・高木俊暢・松浦美香子・小野寺仁人 訳
有本信雄 監訳

丸善株式会社 555 頁 15,000 円+税

読み物
お薦め度
5
☆☆☆☆

本書は M. A. Seeds と D. E. Backman による “Horizons: Exploring the Universe” (何と第 11 版!) の日本語訳で、学生以上を対象とした天文学の基礎から宇宙における生命まで全般的に学ぶことができる天文学の入門書である。Seeds はペンシルベニア州の F&M 大学で物理学と天文学の教鞭を取り、その優れた授業業績から同大学のリンダバック賞を受賞している。変光星や天体望遠鏡の自動化などを主な研究テーマとしている。一方、Backman はスタンフォード大学で天文学入門、宇宙生物学、宇宙論の継続学習プログラムで教えている。主な研究テーマは惑星形成領域の赤外線観測、太陽系近傍の恒星にあるデブリ円盤のモデル解析、太陽系カイパーベルトの進化などがある。また、NASA の SOFIA プロジェクトにおける教育・広報普及活動も行っている。

本書は星空、恒星、銀河、太陽系、生命の五つの部で構成されている。カラーの画像やイラストをふんだんに使って解説されているためビジュアル的にわかりやすい。専門用語は括弧書きで英語表記してあり、ところどころで訳者による丁寧な補足があるなどの配慮がうれしい。また、随所に見開きページで最新の観測機器でとらえた天体の姿、理論や事象を把握しやすいように工夫されたイラスト、グラフが登場する。

例えば第 2 部にある太陽の章では黒点とその周

期について、ひので衛星や SOHO 衛星および TRACE 衛星などがとらえた精細な画像と蝶型図の見方が丁寧に説明してある。内容が濃密であるため画像とイラストと文章が一見ところ狭しと感じるが、整然と並べられており読みやすく仕上がっている。

ここで気をつけていただきたいのは、本書がビジュアルにのみ凝った天文の書籍ではないということだ。巻末の用語集は 500 以上の用語が記されている。20 ある章の末尾には数ページにわたり「考察と復習」と題して、章のまとめと問題(巻末に解答あり)が用意されている。「どうやって知るか?」、「私たちは何なのか?」というコラムがあるが、本書はそれらの問いに答えるための一冊と言っても良い。つまり、さまざまな事柄について科学的にどのように考えどのような方法で理解を得たのか、私たちと宇宙はどのようにつながっているのか、宇宙の中でどのような存在なのか、を考えさせられ、答えを導いてくれる。

始めは価格を考慮し☆四つと考えていたが、読み終えるころには☆を減らす理由はなくなっていた。学生を対象としたものということで研究室に一冊欲しいところだが、できるだけ多くの方に読んでいただきたい一冊である。

前野将太 (兵庫県立西はりま天文台公園
囑託研究員)